

# 令和4年度 学校研究ビジョン

## I これまでの成果と課題



◎「探究パラダイス」というキーワード（目標）を学校全体で共有し、「なるほど、そういうことか。」という言葉や思いを引き出すような授業展開を工夫することができた。

◎「対話」「情報活用」「課題発見」という児童に付けたい3つの汎用的な資質・能力を設定し、児童にその資質・能力が付くように意図しながら、学習活動を展開することができた。

◎児童が課題解決のためのツールの一つとして、ICT機器を活用しながら学習することができた。

◎単元デザインを重視した授業をつくる意識が高まり、単元レベルの深い学びがある授業が実現できるようになった。

◎「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を、実践を振り返りながら ATTR 別にまとめ、共有することができた。



▲「個別最適な学び」と「協働的な学び」のつながりが生かされない授業展開になってしまっている。

⇒「個別最適な学び」と「協働的な学び」が往還する授業イメージが定まっていないことが原因だと考えられる。

▲授業における児童の理解度や学習の進捗具合の捉えが不十分である。

⇒ICT を活用した見取り方が不十分であることが原因だと考えられる。

## II 今後の研究のポイント

### ✓ 探究

「探究パラダイス」の深化を図るうえで、児童がICTを効果的に活用し、深い学びを創造することができるような単元デザインを構築し、3つの汎用的な資質・能力を発揮しながら自ら探究する力の育成と学力向上を目指す。

### ✓ GIGA

「個別最適な学び」と「協働的な学び」が往還的につながるような授業づくりを行い、その中でICTを効果的に活用するなどの授業改善を研究していく。

### ✓ 日常化

ICT活用をより日常的なものにするためにも、学校や家庭の活用機会を増やし、ICT活用の有用性が感じられるような共通実践を積み上げ、検証・分析につなげる研究をしていく。

### Ⅲ 今年度の事業

- (1) 県指定「GIGAスクール構想の実現に向けた教員のICT活用指導力強化事業」の推進校
  - ・児童生徒1人1台端末等ICT機器を活用した授業の研究
  - ・研究成果の発信
- (2) 県指定「ICT活用による深い学びの授業動画作成」
- (3) 県下一斉「GIGA校内研修」
  - ・学習場面における児童のICT活用の促進。
  - ・全体での研修会，学年や教科等のまとまりでの研修会，若プロでの研修等

### Ⅳ 研究主題・副題

研究主題 ICTを活用し，自ら進んで探究する児童の育成  
 副題 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業づくり～

【研究仮説】

教師が，GIGA スクール構想の実現に向けて ICT の効果的な活用を探り，「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善を日常的に図り，児童が，汎用的な資質・能力を発揮しながら深い学びを実現する学習を行う。そうすることで，主体的に学ぶ態度が養われ，目標達成に向けて，自ら進んで探究する児童を育成することができるであろう。

羽咋小の基本的な授業スタイルですが，ATTRの流れは状況に応じて変化させても構いません。Ex. Actionの次にTeam workという形もあります。

### V 取組の内容

#### 1 「主体的・対話的で深い学び」への授業づくり（ATTR with GIGA）

##### (1) 羽咋小授業スタイル



(2)「ATTR with G」の工夫

展開	工夫例
Action (導入)	映像, 写真, 資料 (史料), 既習 等
Thinking (自力解決 or 深める場面)	問題 (課題), 発問, 表現活動, 個への支援, 見取り, 価値付け 等
Team work(学び合い or 深める場面)	問題 (課題), 発問, 表現活動, 形態, 見取り, 価値付け, 板書 等
Reflection (振り返り)	他教科との関連, 経験, 変容 等
GIGA (ICT 活用)	資料 (史料) 提示, ワークシート (学習カード), 共有, 対比 等

2 研究の重点

(1) 年間の流れ



First round (4~7月)

	<input checked="" type="checkbox"/> 探究	<input checked="" type="checkbox"/> GIGA	<input checked="" type="checkbox"/> 日常化
視点	児童は、各教科での探究活動を通して、「対話」「情報活用」「課題発見」の資質・能力が育ったか？	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還的につなげ、その中でICTを効果的に活用していたか？	児童は、研究の重点として掲げたことを、日々の授業で発揮していたか？
手段 (Do)	①付けたい汎用的な資質・能力の具体を明確にし、②資質・能力の育成につながる児童の意識を (ICT 活用と関連させて) 具体的にもつ。	③1単位時間の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還的に位置付け、④それぞれの場面でICTを効果的に活用できる場面を探る。	GIGA 構想をふまえた授業を行った際、⑤共有データに記録する。
検証方法 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業 (Jam board, Forms を活用)</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導案</li> <li>ICT の活用の様子観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>G マーク</li> <li>アンケート調査</li> </ul>



**【手段 (Do) の詳細】**

①付きたい汎用的な資質・能力の具体

	低学年	中学年	高学年
対話	相手の考えを聞き取って、自分なりの反応を返す力	相手の考えを自分の言葉にして説明する力	自他の考えを比べ、聞いたことを取り入れて、自分の考えを語る力
情報活用	課題解決に向けて、情報を収集・選択する力 (※B-2, B-3)	目的に合わせて、必要な情報を収集する力 (※B-5, C-4)	複数の情報を統合して整理する力 (※B-9, C-7)
課題発見	困ったことや気になることから課題をつくる力	弱点から課題を見つけ、 <b>粘り強く</b> 取り組む力	自分の課題を見つけ、見通しをもって <b>粘り強く</b> 改善していく力

(「羽咋小版 情報活用能力段階表」参照)



本時案に組み込めるといいです！

②3つの資質・能力の育成につながる児童の意識の例

	個別最適な学びの場	協働的な学びの場
対話力の育成につながる視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分の考えを相手に分かりやすく、効果的に伝えるようにするためにロイロノートでプレゼンテーションの構成を組み立ててみよう。</li> <li>◎上手な話合いの仕方を撮影した動画を見て、参考にしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分はこう思うけど、他の人はどうだろう。Jam board を使ってたくさんの人の意見を聞いてみたい。</li> <li>◎ZOOMを使って、遠く離れた学校の人と交流をして、新しい考えに触れてみたい。</li> <li>◎この課題を解決するための話合いの仕方としてどのアプリを使おうかな。</li> </ul>
情報活用力の育成につながる視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎インターネットを通してたくさんの情報を集めたけれど、これをどう整理していけばいいかな。</li> <li>◎他の授業で学習したことが使えるそう。端末に保存してある学習記録をもう一度見てみよう。</li> <li>◎どのアプリを使えば、情報を分類しやすくなるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎このクラスでみんなが一番関心を持っていること(言葉)は何なのだろう。テキストマイニングを使って調べてみたい。</li> <li>◎デジタル教科書で主人公の揺れ動く心情にマークしたけれど、それらを関連付けて作品のおもしろさを考えてみたい。</li> </ul>
課題発見力の育成につながる視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎AがどうしてBになったのだろう。2つの資料を画面上で並べて比較して原因を探りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎様々な課題を Jam Board 上の2軸のグラフに付箋紙を貼り、解決の必要性(優先度)の高いものを明らかにしたい。</li> </ul>

## ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還的につなげる授業づくり

基本的なスタイルとして、1単位時間において、「個別最適な学び」→「協働的な学び」→「個別最適な学び」の学習の流れをつくる。他にも、家庭において「個別最適な学び」を行った場合、翌日の授業では冒頭から「協働的な学び」を行い、「個別最適な学び」に戻るといった流れも考えられる。また、単元全体で見た時に1単位時間全てを「個別最適な学び」や「協働的な学び」とすることも考えられるが、その場合においても「個別最適な学び」と「協働的な学び」に往還的なつながりができるようにする。



授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素の組み合わせが考えられる。授業の中で、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元する等、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

(令和3年1月26日中教審答申より抜粋)

また、それぞれの学びを往還的につなげるだけでなく、「個別最適な学び」の2つの要素である「指導の個別化」と「学習の個性化」の手立てを明確にして指導する。

「自力解決」＝「個別最適な学び」ではありません。個別最適な学びの2つの要素をしっかりとさえましょう！

「指導の個別化」 すべての児童が一定の目標を達成することができるように、

- ①必要に応じた指導・支援をさらに充実させる。← **First round で！**
- ②個に応じて異なる学習方法を提供し、児童が自分で最適な学習方法を選択することができるようにする)。← **Second round で！**

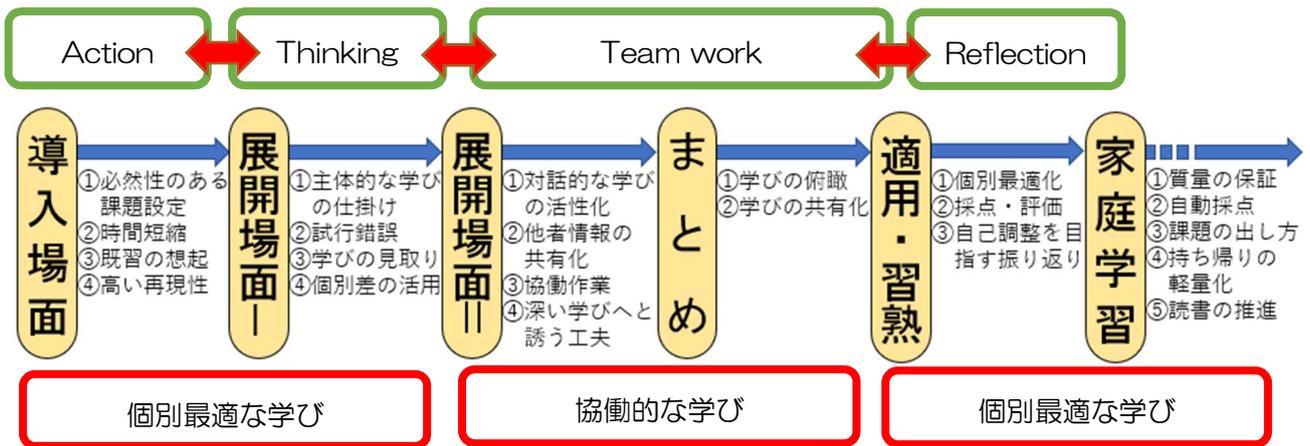
- ・全員が同じアプリを使っている、それは個々の児童にとって最適な学習方法になっているでしょうか？
- ・ICTが最適な学習方法となることが望ましいですが、学年（発達段階）に応じてICTが最適な学習方法になるとは限りません
- ・指導案の4「GIGAスクール構想の実現に向けた工夫」の項目を（できればICTと絡めて）もう少し詳しく書いていきましょう！

「学習の個性化」 個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げていくことができるように、

- ・生活科や総合的な学習の時間を中心に、教師が児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。← **Final round で！**

④ATTR別手立て

「Action」「Thinking」「Team work」「Reflection」の場面で、ICTの効果的な活用を探る。



どの場面でICTが活用できそうか整理して考えましょう！



⑤GIGAスクール構想をふまえたICTの活用場面の記録と共有（Gマーク）

以前のように週案にGマークを付けても管理職だけしか実践状況の把握ができなかったので、今後はGIGAリーダーを含め、全員が各々の実践状況を確認できるような共有データによる記録の仕方を検討中です！



## Second round (8~11月)

	☑ 探究	☑ GIGA	☑ 日常化
視点	児童は、「対話」「情報活用」「課題発見」の資質・能力を発揮し、教師は付けたい力が付いたかを見取ることができたか？	児童は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が往還的につながる授業の中で、児童は自分にとって最適な ICT による学習方法を選択することができたか。【指導の個別化】	児童は、授業以外の場面でも、自ら進んで学習しようとしていたか？ 
手段 (Do)	⑤学力の定着具合を AI ドリルや成果物等で見取る。	⑥児童は「GIGA ブック（仮）」をもとに、自分にとって ICT を活用した最適な学習方法を選択する。	⑦授業以外の場面での活用についての実践を行い、まとめる。
検証方法 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業 (Jam board, Forms を活用)</li> <li>AIドリル, 成果物</li> <li>ハピネスラブレター</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT の活用の様子観察</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携</li> <li>夏季休業中の実践と実態</li> </ul>

### 【手段 (Do) の詳細】

**NEW**

#### ⑤評価（見取り）を確実にする。

算数科ならば授業終末の「適用・習熟」は端末を使い、解答や成果物を教師機に送信することで、達成度を評価するようにする。もしくは、AIドリル（例：ミライシードのドリルパーク）を使って、個の習熟に合う問題を解く。また、国語科では教科書教材で学んだことを並行読書材で適応させて課題に取り組ませ、その成果物で児童の学力の定着を見とる。

**NEW**

#### ⑥「GIGAブック（仮）」の活用

児童は「自力解決」や「協働」の場面において、ICT を活用する際に、自分にとって最適な解決方法（ツール）を「GIGAブック」を参考に選択することができるようにする。

自力解決の場面（家庭学習含む）でので使えるアプリ・・・ミライシードなど  
協働の場面において使えるアプリ・・・Jam Board ロイロノートなど



#### ⑦授業以外の取組

- ア 朝の活動 例) 健康観察, 一日のめあてと振り返り等
- イ 特別活動 例) 委員会活動, クラブ活動, 行事での活用等
- ウ 家庭学習 例) 個別最適化を目指したドリル学習, 次時に備えた予習, 日記等

## Final round (12~3月)

	☑ 探究	☑ GIGA	☑ 日常化
視点	児童は、興味・関心をもとに、学習課題や学習活動を選択した上で探究に取り組み、その成果をICT機器で表現できたか？【学習の個性化】	児童は、目的に合わせてICT機器を活用し、自分の考えを表現できたか？	児童は、端末を文房具の一つとして自在に使えることができたか？ 
手段 (Do)	⑦自分の考えや思いを個別でまとめ、発表する。	教科の学びや社会課題等の解決、 <b>自己のキャリア形成</b> につなげる。	目的や用途に合わせて、主体的に端末の使用を選択する。
検証方法 (Check)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科、総合的な学習の時間でのプレゼンテーション発表</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科、総合的な学習の時間でのプレゼンテーション発表</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査</li> </ul>

### 【手段 (Do) の詳細】

#### ⑦プレゼンテーション力の育成

端末を活用し、自分の考えや思いを表現したプレゼンテーションを3学期に行う。1, 2年生は生活科、3~6年生は総合的な学習の時間で実施する。

### 3 その他の取組

#### (1) 研究授業

##### ①Google「Jamboard」による授業評価

従来の付箋による成果と課題の書き出しから、Chromebook を活用した授業評価を行う。ATTRの場面にそって、成果と課題を色別シートで送信し、参観者はリアルタイムで意見を共有する。

##### ②Google「Forms」による授業後評価

授業後評価として参観者のアンケート調査を実施する。Chromebook を活用し、グラフ化した評価を授業整理会で活用できるようにする。

##### ③授業整理会

「Jamboard」「Forms」を駆使し、授業改善のヒントを導き出す。

##### ④学校研究だより

研究授業後、授業者は、速やかに考察を含めた研究だよりを作成する。自身の授業のふり返しを行うことで、授業改善に結び付ける。さらに、全教員へ還元することで、効果的な指導等を共有する。

## (2) 期間限定

### ①相互授業参観



他学年参観を行うことによって、目標となる学習の姿を学ぶことができるようにする。

### ②GIGA 全集中週間

GIGA スクール構想の実現を大きく進めるために、全員で ICT 機器を活用した授業に意図的に取り組んだり、GIGA 研修を集中的に取り入れたりする。

### ③学習アンケート【対象：児童】

学習アンケートを年4回に行い、変容を見る。アンケート実施後は、児童に還元し、アンケートの回答の理由について交流し、実態把握や意欲向上につなげる。

### ④オーセンティックな学びの実現

相手意識や目的意識を高めることを通して探究活動をより充実させるためにも、県内外の学校や企業等とつながって、よりリアルな（本物の）学びに触れられるようにする。

→昨年度の実績をまとめた一覧を作成する。

## 4 学校研究を支える基盤づくり

学力向上	ICT	道徳教育	英語教育
<ul style="list-style-type: none"><li>・アクティブノート</li><li>・相互授業参観 (ハピネスラプター)</li><li>・ハピネス・カリキュラム</li><li>・学力向上ロードマップ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・GIGA校内研修</li><li>・GIGAブック</li><li>・Chromebook</li><li>・オンライン</li><li>・端末の持ち帰りによる家庭学習</li><li>・プログラミング</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報モラル</li><li>・出張道徳</li><li>・板書コーナー</li><li>・道徳ファイル</li><li>・ハピネスト (SST)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英検・Jr.英検</li><li>・環境整備</li><li>・朝自習の取組</li><li>・リスニング強化</li></ul>

## 5 指導改善を進める体制づくり

### (1) 低・中・高学年部会による授業づくり **(学びの指針1, 2, 3)**

児童の発達段階を考慮し、指導体制の工夫と評価の仕方を研究する。

### (2) 4つのプロジェクトチームによる基盤づくり **(学びの指針4, 5, 6, 7, 8)**

4つのプロジェクトチームを連動させることで、組織的に基盤づくりを行う。

### (3) 校内研修会 (OJTを含む) の実施 **(学びの指針10, 11)**

3つの部会と4つのプロジェクトチームの横のつながりを保ち、共通理解を図るための校内研修会を積極的に行う。若プロの研修も積極的に行い、1人1回、メンターとしての講師を務める。

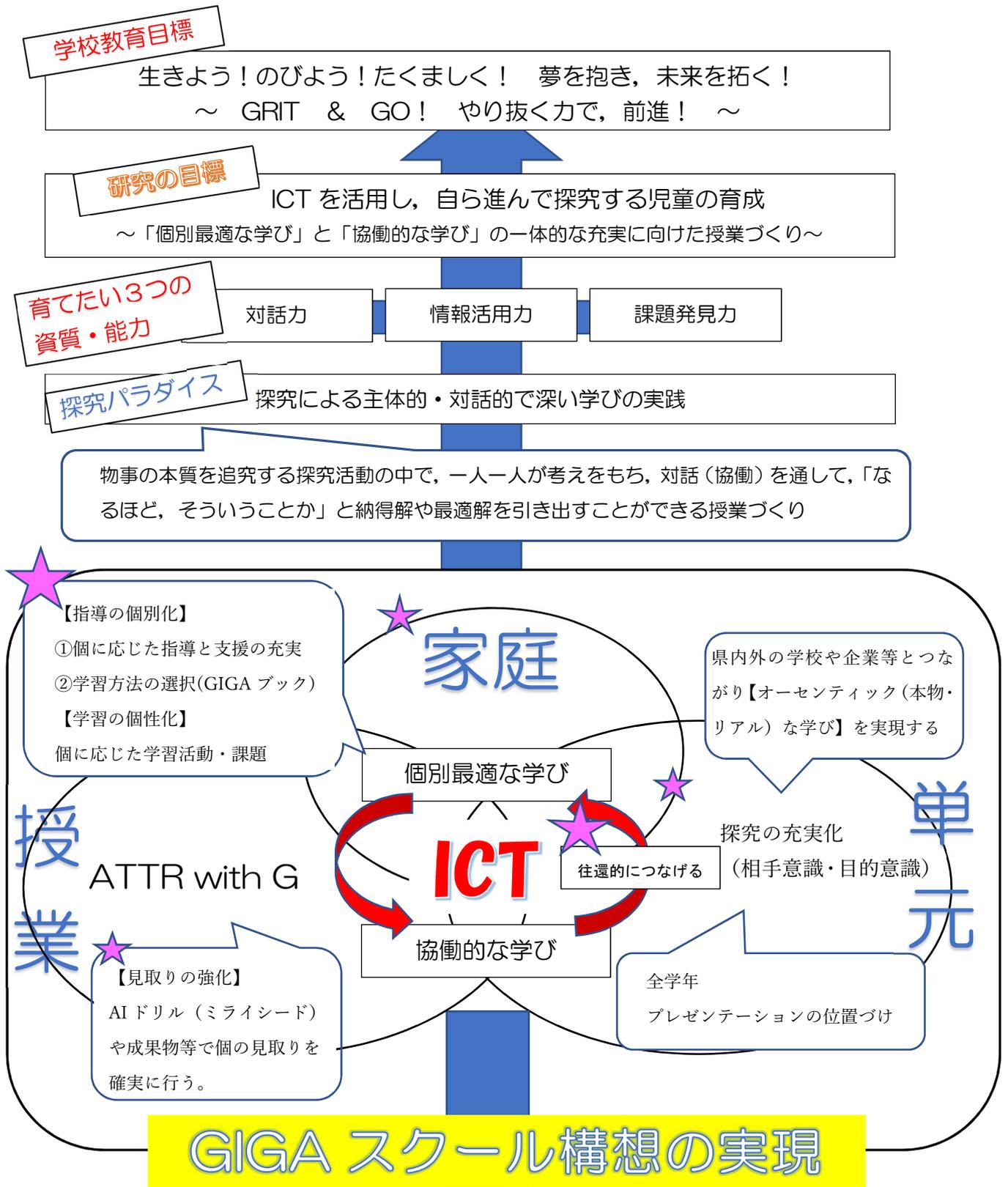
### (4) 幼保小中連携や小小連携 **(学びの指針10, 12)**

幼稚園・保育所や中学校、また先進校との連携を図り、指導改善に努める。

### (5) 通信や授業参観等による保護者・地域との連携 **(学びの指針9, 10, 12)**

定期的に発行する通信や学校報、ゲストティーチャーを招く授業、保護者へのアンケート調査等、地域に開かれた学校を目指す。

## IV 研究構想図



探究	GIGA	日常化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1研究授業</li> <li>・6年生による探パラ講座</li> <li>・1人1プレゼン(3学期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン公開研</li> <li>・ハピネス・アカデミー(夏冬)</li> <li>・GIGAトレ&amp;チャレ掲示</li> <li>・GIGA校内研</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週案へのGマーク</li> <li>・相互授業参観</li> <li>・6年生発信の学習規律(集会)</li> </ul>